

# 会報 NO.19

令和5年6月1日発行  
 特定非営利活動法人なごや  
 歴史まちづくりの会事務局  
 名古屋市中区種木町3-58  
[contact@758rekimachi.net](mailto:contact@758rekimachi.net)

## 令和五年度 通常総会の開催

五月二十日(土)通常総会が名古屋都市センター特別会議室で開催されました。来賓として、名古屋歴史まちづくり推進室の山本功一室長、名古屋まちづくり公社の山内参事、中西主幹、鬼頭主査、佐野主査、あいちヘリテージ協議会の下會所代表世話人、山本副代表世話人、愛知県登録有形文化財建造物所有者の会小川芳範相談役、公益社団法人日本建築家協会修復塾東海支部後藤文俊委員も来てくださる中、加藤理事長からは「活動を通じてこれからも名古屋の良さを発掘していきましよう」と挨拶がありました。

第一号議案令和四年度事業報告・決算報告、監査報告、および第二号議案令和五年度事業計画(案)・活動予算(案)、第三号議案役員(案)の選任(案)について説明があり、三議案とも拍手多数で可決されました。理事長以下役員の異動はありませんが、

新たに荒木衛氏に理事に加わってもらうことになりました。(正会員九十四名中、委任者含む五十八名参加) コロナの制約も少なくなりつつあり、今年度もそれぞれの委員会を中心に、ワークショップや見学会などの活動を進め、歴史まちづくりを楽しんでいきましょう。



参加者で記念撮影

また、今年度は総会の前に公社主催「なごや歴まちびとフォーラム」が開催されました。公社からは、旧旅籠屋「伊勢久」の保存活用についてと歴まちびと制度および登録・認定制度についての講演があり、その後「歴まちびと派遣体験発表会」として、後藤文俊さんから堀田の「旧三石工務店」、猪飼幸雄さん、山田美紀子さんから白壁の「聖マルコ教会」に関し発表がありました。聖マルコ教会では歴まちびとの改修提案が受け入れられ現在工事が進んでいるそうです。

## 令和五年度第一回理事会の開催

四月二十四日(月)、理事会が理事十三名参加で開催されました。審議事項は総会に付すべき事項として、第一号議案令和四年度事業報告・決算報告、第二号議案令和五年度事業計画(案)・活動予算(案)、第三号議案役員(案)の選任(案)について、三議案とも賛成多数で承認され、総会に議案として提案されることになりました。

## 『事務局だより』

### 確定申告と市県民税の納付

会計より令和四年度の確定申告と市県民税の納付を行いました。納税額は次の通り。  
 法人市民税五〇、〇〇〇円、  
 法人県民税二一、〇〇〇円

## 事業報告その一

### 「なごや歴まちびとスキルアップ講座」の開催と関連資料の収集

#### 及び整理事業

この事業はなごや歴まちびとを対象にスキルアップを図ることを目的に、国の登録有形文化財の申請手続きに係る講座として、また二期生の登録更新を兼ねるものとして開催されました。併せて来年度以降に行う予定の「旧春田鉄次郎邸」の登録申請を旨とした、関連資料の収集と整理が行われました。スキルアップ講座は名古屋市昭和

区の川原田家住宅にて三月二十四日(金)と二十五日(土)の二日に渡って開催され、二日合わせて十九名が参加されました。座学の講師にはヘリテージマネージャーで歴まちびとの後藤文俊さん、市川真奈美さんをお招きし、建物解説には同じく川口亜稀子さん、山田美紀子さん、サポーターで歴まちの会会員の小川芳範さんにご協力いただきました。

「川原田家住宅」は令和二年四月に国登録有形文化財に登録された建物群で主屋の他に表門及び塀、石垣、裏門及び塀の計四件が登録されています。ちなみにこの建物の設計者は地元の建築家、丹羽英二氏で同時期の設計には下呂温泉の湯之島館などがあります。

講座の内容としては、歴まちびとの活動の拡大と充実のため歴史的建造物の所見の書き方など、国登録有形文化財の登録申請方法の勉強会でした。



座学

第一日目には歴まちびと十二名(一期生一名、二期生八名、三期生一名、四期生二名)が受講、最初に建物の所有者でもあり愛知登録有形文化財所有者の会会員の川原田淳さんよりご挨拶があり、座学の前半に川口さん、山田さんの解説により建

物内外を見学、後半に後藤さんから「国登録有形文化財の登録申請方法」を、続いて市川さんから「文化財登録の費用について」の説明を受けました。

第二日目には歴まちびと四名（一期生一名、二期生二名、四期生一名）その他三名が受講、最初に建物の所有者でもあり愛知登録有形文化財所有者の会会員の川原田淳さんよりご挨拶があり、座学の前半に川口さん、小川さんの解説により建物内外を見学、後半に後藤さんから「国登録有形文化財の登録申請方法」を、続いて市川さんから「文化財登録の費用について」の説明を受けました。



建物解説

### 今回の講座と併せて行った事業

「登録有形文化財登録手続きのための資料の収集整理」は二月二十六日（日）に、運営委員会にご応募いただいた歴まちびと七名にて、歴まちびとで歴まちの会会員の春田正洋さん宅にお邪魔して資料の収集、整理等を行いました。この資料は来年度以降に予定されている「旧春田鉄次郎邸」の登録申請のためのものです。今回の報告書へ添付して提出してありますので、これから登録手続きの実務をやられる方々には好材

料かと思えます。

このスキルアップ講座での勉強会は歴まちびとにとっては新しい分野へのスキルアップとなるので、もっと大勢の方々に受講していただくことを期待していたのですが、それなりの成果はあったかと思えます。

（なごや歴まちびと…原眞佐実）

### 事業報告その二

「旧暦を楽しむ上巳の節供と堀田の歴史と建築」に参加して

快晴に恵まれた令和五年四月二十二日（土）十三時より、瑞穂区堀田の通り角に立つ昭和九年竣工した旧三石工務店土間にて、満席で開催されたその西の離れのひな壇に飾られたお雛様（大塚様所有）が目にとまる。

はじめに所有者の大塚様より、四月二十二日は旧暦のひな祭りで離れのお雛様もご覧下さいとご挨拶された。



チラシ

第一部は、地元堀田の京和菓子銘店昭和二十七年創業「亀吉廣」その建物は、登録地域建造物資産に登録、三代目店主伊藤久晴さんより、伝統郷土菓子の「おこしもち」の作り方のお話を伺った。みたらし団子と同じ米粉に押しお湯一・二倍で型に押し込む「おこしもち」の「おこしもち」の由来だそう。押し込む木型は何種類もあるが砂糖は入らず米粉と水だけの「おこしもち」固くなったら焼いて、醤油や砂糖醤油、

を付けて食べられる。御内裏様と桜の「おこしもち」の実演で会場は華やかだ。三代目はモノづくりマイスターの称号で、小中高に伝統菓子のものづくりを教えている。初代「春吉」は、京都で四百年続く「亀末廣」から分家し、十年前まで続いた名古屋栄「亀末廣」で戦前に修業した。その一文字入れ替えて「亀吉廣」を創業したという。



郷土菓子「おこしもち」



「堀田のいいとこ話」

第二部は歴まちびとの濱田祥孝さんが「堀田のいいとこ話」二十二話の内四話をした。

一話は「太古から豊かな場所」。堀田周辺は、象の鼻形をした、熱田台地、瑞穂台地、笠寺台地の方も堀田、堀田台地、多古荘、井戸田荘荘園など太古から人が住んでいた。堀田は低湿地で水に恵まれていた。瑞穂台地で作られた麦から、真田紐、麦稗帽子が作られる。その後大正から昭和にかけて BREMER が設立した。

二話は、「郁達夫・晴雪園の思い出」魯迅にならぶ中国の自伝的小説作家、郁達夫（いくたつぶ）。戦前十九歳で日本に留学、一九四五年若い日本兵に打たれ四十九歳の命を落とす。中国の小説の始まりであるその小説は、日本に翻弄された差別と心の病を抱え乗

り越えて悲劇の人生、「沈淪」ちんりんだ。堀田にあった晴雪園の梅園等田園風景は、中国の名勝・孤山放鶴亭に勝るとも劣らない忘れられない場所、名古屋では親切にしてくれた人が多く、郊外の地で留学生活が良かったので記念碑は名古屋大学内にあるが遺跡は、小説にゆかりのある堀田の場所にあるべきと熱弁。

三話は、「魅力的な建物たち」の話。

堀古き良き時代の木造の建物、堀田の境界は懐かしさや郷愁を感じ、目抜き通りはノスタルジックな気分になれる。四話は、「妄想」千葉県佐原（さわら）は江戸、明治のまちの記憶を残し、昭和にあこがれる、まちなみ博物館のよう堀田界隈と感じが似ている。堀田研究室の私たちが街に残されている昭和のものを本人の申告で登録していくことは大事。建物や物、ガラス窓、旧三石工務店さんのタオルや、写真など残していったら面白い。堀田のいいところを残していきたい。「今後機会があればしていきたい」と熱い思いで締めくくった。

その後名古屋まちづくり公社名古屋都市センターの山内氏が、登録地域建造物資産、認定地域建造物資産等の制度について、地元の方に説明されて会が終了した。今回のイベントを通して、太古からの歴史と堀田界隈は興味深い物語を含め、魅力を多く含んだ限界であることを、楽しく知ることができた。このような活動は、まちの活性化に必要で名古屋歴まちびとの活動に重要性を感じた。

（なごや歴まちびと…後藤文俊）